

金城学院幼稚園

Christmas 編

2023 年度

こどもニュース

No. 13

11/30

発行



【証しの会・秋のコンサート、ありがとうございました!】

少し前になりますが 11 月 8 日(水)に父母の会主催の「証しの会」があり、70 名以上のおうちの方々と豊かな時間を分かち合いました。2 学期にはいった直後から丁寧な運営のご準備をしてくださった役員の方々に心より感謝申し上げます。

当日は奏楽のオルガンの音色、讚美の会の皆様の歌声、証しや麻衣子先生のお話……。どれも胸が一杯になりました。出席されなかった方にも証の会の冊子がお手元に配られたと思います。ぜひじっくりとお読み下さい。神様は私たちが気づかなくても忘れていても、どんな時でも、いつも呼びかけてくださり、ともにいてくださると感じられます。

証しの会のあとは、Catta de Terra の皆さんによる秋のコンサート。もったいないくらいの短い時間の中に美しい音色、楽しい音色が盛り込まれ、豊かな世界へ連れて行ってくださいました。

子ども達にも合同礼拝の後に演奏していただきましたのですが、楽しい曲ではリズムに合わせた手拍子が自然と沸き起こり、静かな曲ではじっくりと聴く子ども達の姿に驚きました。また「動物の謝肉祭」という曲ではお話しと曲想からイメージが湧くのか、演奏されるライオンやめんどりなどの動物そのものに「なってしまう」子ども達が続出! 視聴覚は無くても曲想からイメージをちゃんと受け取っている事に驚かされましたが、感じたことをすぐ表現できることにも感心しました。最後は今年のテーマソング「小さな世界」を皆で大合唱! とても盛り上がりました。自然に音楽と一体となる子ども達の姿に驚くとともに、その様な体験をさせていただけけることに本当に感謝しました。ありがとうございました。

【待つことの意味】

さて、水曜日の合同礼拝では、クランツの 2 本目のろうそくに火が灯されました。毎週一本ずつろうそくの火が増えていくのを見ることは「どんな時でも神様が見ていて下さる」という事を実感できる瞬間です。

アドベントは救い主イエス様の降誕を「待ち望む」期間ですが、毎年この時期を迎えるといつも(私たちの日常に「待ち望む」ということがどのくらいあるのだろうか。)と考えます。待つからこそ喜びも大きいと思うのですがスピード感を求められる現代社会では「待つ」ことは常にマイナスのイメージで語られてしまいます。「お待たせしません!」「すぐに対応します!」ということばかりが強調される現代社会です。

先日、子ども達と一緒に渋柿を収穫し、干しました。「今、食べようよ」という子ども達に「干すと美味しくなるから待ってね」と答えると「お弁当食べたら?」と言います。「もう少し待ってね」「明日?」「もっと待ってね」「えー? やっぱり今食べたい!」「なんですぐ食べられないの?」となかなか納得してもらえませんでした。考えてみれば、最近のおやつは袋を開ければすぐに食べられるものばかり。美味しくなるまで何日も待つ、という経験もなかなか無いのかもしれませんが。

また最近の若い方々の間では「コスパ」だけではなく「タイパ」という言葉も盛んに使われているようです。「タイムパフォーマンス」の略だそうですが、時間当たりの活動効率を求め、無駄なく時間を使えるかどうかが大変だとか。でも「時間の無駄」とはどういうことでしょうか? 人生は明確な答えがあることばかりではありません。悩んだり立ち止まったりしたことが後から「今に活きた」と感じることはよくあります。素早い判断が必要なことももちろんありますが、時には本当に大事なものを見極める時間、また本当に必要なことは何かをじっくりと考える時間も大切にしたいと思っています。

園のクリスマスは 1 か月以上をかけてゆっくりと進みます。

園芸の会の皆様が創ってくださったリースを飾り、クランツに一本ずつ火を灯し、少しずつ讃美礼拝のハレルヤが進み、子ども達の歌声が園のそこここから聞こえるようになり……。いっきに華やかな飾りに彩られるのではなく、そのようにして日一日と本当のクリスマスに向かうアドベントを大事に丁寧に過ごし、イエス様のご降誕を待ち望みたいと思っています。

児玉 芽 



天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」（ルカによる福音書2章10～12節）

クリスマスを祝う季節になりました。街に出かけると、赤や緑、白や金色などの飾りや、聞こえてくるクリスマスキャロルに心は躍ります。

けれども、イエス様の誕生を知らせる天使は暗闇に舞い降りました。羊飼いが一晩中、羊の群れの番をしていた時のことです。そこは、彩りを失った羊飼いの日常。灯りや温もりもなければ、賑やかな音楽も聞こえません。見渡せば吸い込まれるような暗い大地での出来事でした。他の人とは断絶された場所。他の人には介入されたくない場所。そこで告げられるのです。「あなたがたのために救い主がお生まれになった」と。ところが羊飼いは、ただちに喜ぶことができませんでした。

これは私たちにも共通するよう思います。「救い主があなたのために生まれました」とお聞きしても、自分にどう関係があるのかピンとこないからです。けれども神さまは今日でも、私たちの内側に広がる闇の中に、「大きな喜び」を、イエス様の誕生を、宣言してくださいませ。

そのイエス様が寝ているのは飼葉桶の中でした。ヨセフとマリアは強いられた旅の途中だったのです。皇帝の勅令によって全領土の人間が、住民登録をするために帰郷の途についていました。そのために宿はどこも混んでおり、さらには大繁盛の最中に産気づくかもしれないマリアとは「関わりたくない」という人間的な思いがあったかもしれません。ようやくマリアとヨセフが通された場所が馬小屋でした。人々から追いやられるような中でイエス様は生まれ、そして飼葉桶に寝かせられたのです。

けれども、これら全てのことは神さまの御計画でした。私たちは子どもに一番良いものを与えたいと準備します。ましてや産着やベビーベッドなどは慎重に選んだことでしょう。けれども神さまは独り子に飼葉桶を選ばれたのです。家畜の唾液や汚れにまみれた飼葉桶。そこは誰からも眉をひそめられる場所です。落ちない汚れと臭いにまみれた場所です。人を迎える客間ではなく、誰も招くことのできない場所です。そこに神さまは御自分の独り子を与えられました。

これは、神さまが私たちの暮らしの只中にイエス様をおくってくださったことを表しています。人には見せられない私の内側や、どんなに洗っても消せない私たちの汚れた部分、そこに救い主が来てくださったのです。神さまは私たちを見てくださっていました。助け手をおくってくださいました。私たちにもこの大きな喜びが与えられたのです。

クリスマスの時、皆さんの上に神さまの祝福を祈ります。

（山田麻衣子）





クリスマスブックについて

讚美礼拝の準備が始まり、年長児はクリスマスブックを受け取りました。自分の名前が書いてあるクリスマスブックには一人ひとりが担う言葉や歌が載っています。前号のこどもニュースに書いてあったようにクリスマスの準備を進めるハレルヤで使用するものですので、毎日リュックに入れて幼稚園に持ってきてください。また12月に入ってから、保護者のみなさんも讚美歌練習と称したハレルヤがあります。その時には、子どもたちからクリスマスブックを借りてご参加ください。

子ども達は、クリスマスブックを受け取ると早速ページを開き「あった!私のところ」と自分が担う箇所を見つけじっと見入っていました。「これは何て読むの?」と保育者に聞きながら言ってみたり、同じ役同士で「おれはココだった」「私は3番目のところ」と見せ合っていたり、中には「ここが難しい」と繰り返し読んでいる子もいました。子ども達にとっては特別な本ようです。

このクリスマスブックは幼稚園で何十年も前から使われているものです。毎年毎年、子ども達の希望から少しずつ変化を重ねてきました。以前、《天使》では台詞よりも歌が歌いたいと希望が出た時に子ども達の意見で両方すれば良いよと決まった年がありました。

讚美礼拝は劇ではありません。イエス様の誕生を喜び迎える姿を聖書に沿って表せれば、役柄によっては言葉を増やしたり、衣装のある限り人数を調整し子ども達の希望や思いが叶うようにと考えています。

この先、一人ひとりが台詞を覚えていく中で、言いまわしや表現が少し変わるところが出てくるかもしれません。それは子ども達はその役柄を身体を通して理解した時にクリスマスブックに出てくる言葉が単なる「台詞」ではなく、イエス様の誕生を祝う、子ども達自身の「心の言葉」として表現されるからではないかと思えます。

讚美礼拝当日は、子ども達の心のこもった言葉に耳を傾けていただき、共に讚美の時を過ごしましょう。



☆ お願い ☆

クリスマスブックは配役決定前に印刷・製本を行っています。子ども達がクリスマスブックを持ち帰った時に、変更しているところの書き換えを各自でお願いします。(年長児は変更済みです)

P3 ★ガブリエル★ (台詞が歌になります)

マリアおそれることはない。あなたはみごもって
おとこのこをうむ。そのこをイエスとなづけなさい



ガブリエル そのこのなまえを イエスとなづけなさい
かみをしんじましょう ただひたすらに

P6 ♪さんびか「そらにはてんしの」 うたうてんし



♪さんびか「そらにはてんしの」 てんしたち

♪さんびか「もろびとこぞりて」

今年度は、1番から4番を歌った後、4番を繰り返します。

よろしくお願いいたします。



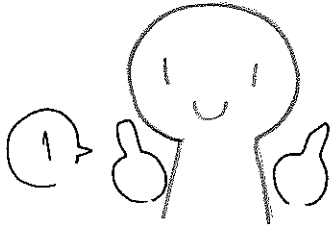


クリスマスに、こんな歌はいかが？

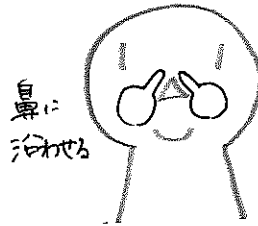


あちこちでクリスマスソングが聞こえてくるようになりました。幼稚園でも、讃美礼拝の歌だけでなく、様々な歌を楽しんでいます。今回は、子どもたちが今楽しんでいる手遊びを紹介します。

一本と一本で



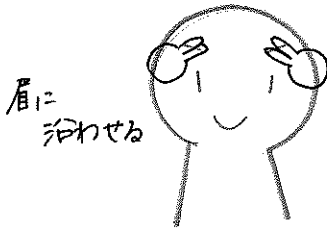
お鼻になって



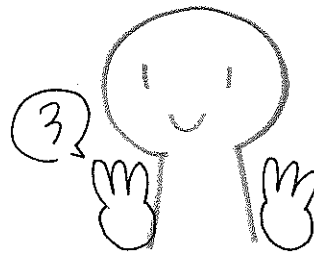
二本と二本で



眉毛になって



三本と三本で



帽子になって



四本と四本で



おひげになって



五本と五本で



雪を降らせて



サンタになっちゃった



終業礼拝後のクラスのあつまりでも行う予定です。詳しいやり方はお子さんから聞いてみてくださいね。

Deck the Halls

ひいらぎ かざろう

Gaily

mf Eb

Bb Cm Bb7 Eb Fm Eb Bb Eb

1. ひいらぎ かざろう ファララララ ララララ
1. Deck the halls with boughs of hol-ly, Fa la la la la la la la la,

Eb Bb Cm Bb7 Eb Fm Eb Bb Eb

はれぎに きかえて ファララララ ララララ
'Tis the sea-son to be-jol-ly, Fa la la la la la la la la,

Bb7 Eb Bb Eb Gm Cm Bb F7 Bb

カ ロルを うたおう ファララ ラララ ララララ
Don we now our gay ap-par-el, Fa la la la la la la la,

Eb Bb Cm Bb7 Eb Fm Eb Bb Eb

たのしい このとき ファラララララ ララララ
Troll the an-cient Christ-mas-car-ol, Fa la la la la la la la la.

ひいらぎ かざろう ファラララララ ラララ
はれぎに きかえて ファラララララ ラララ
カールを うたおう ファララ ラララ ラララ
たのしい このとき ファラララララ ラララ